

# C-9 乳幼児の衣料障害の実態調査

奈良女大家政 ○佐藤に子

水梨サワ子

目的 乳幼児の衣料障害の実態を知り、洗剤及び表面加工処理剤と皮膚障害との関連を数値化し、種々考えられる原因の中で洗剤・表面加工処理剤が他の問題より強い結びつきをもっているか、あるいは無視できえない結びつきをもっているか、を出してゆく。関連の度合を数値化するにあたってクレマー関連係数( $r_c$ )を用いた。

調査法 奈良市西奈良保健センターでの定期乳幼児健診(0~2才半までの乳幼児対象)において母親に面接法で自由回答してもらった。調査期間1955年5月~10月。総数256名の回答を得た。

検討法 回答項を皮膚障害を起した頻度の高いものから順位づけをし、これを縦軸とする。また皮膚障害の原因と考えられる項目を理論仮説に従って順位づけをし、これを横軸とする。この2つをかけ合わせ( $r_c$ )を出す。 $(r_c)1$ 経験的に $a14$ 以上一関連あり、 $a1\sim a14-$ やや関連あり、 $a1$ 以下一関連なし、といわれている。

調査結果 今回の調査では関連度の高いものとして乳幼児の体質( $r_c$ ) $a.2619$ , おむつの回数( $r_c$ ) $a.2276$ , 出産時の体重( $r_c$ ) $a.2272$ , まくらカバーの洗濯の仕方( $r_c$ ) $a.1697$ , 肌着の材質( $r_c$ ) $a.1490$ , おむつの洗濯の仕方( $r_c$ ) $a.1470$ , おむつの上にしくもの( $r_c$ ) $a.1453$ , まくらカバーを替える回数( $r_c$ ) $a.1448$  関連がないものとして母親の経験度〔何人中の何番目の子であるか〕( $r_c$ ) $a.0949$ , 父親の体質( $r_c$ ) $a.0938$ , 妊娠中の状態( $r_c$ ) $a.0927$ , 肌着を着かえる回数( $r_c$ ) $a.0889$ , となった。なお諸クロス図表及び( $r_c$ )から表面加工処理剤—特に蛍光増白剤・柔軟剤には乳幼児の皮膚障害をひき起す可能性が考えられ他の問題と比較しても無視できえない関連の度合を示すことがわかった。